

## 2007年12月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

12月25日

日本一の凱せん帰校!! 陸上部を迎える



先の全国高校駅伝で7年ぶり2度目の日本一に輝いた女子陸上部が関係各所への挨拶回りを済ませ、夕刻に帰校。硬式野球部は三室戸での練習をいったん中断し、ランニングでキャンパスに駆けつけ、他クラブとともに陸上部の日本一を祝った。23日の本番でも応援ポイントに分散して声援した野球部員の感想は「野球部も陸上部に負けてられへん」。この日、陸上部員の胸に輝く金メダルや前にずらりと並べられた優勝旗、優勝盾や賞状の数々はきっと硬式野球部員のそれぞれに何かを訴えかけたはずである。

12月15日

万が一に備えて...AEDの新設



今年度は近畿の他校で練習中や試合中に心臓部にショックを受けるという事故が起こり、「自動体外式除細動器（AED）」その存在が大きくクローズアップされた。野球部のグラントで関係する事故が起きた場合、最も近くあるAEDは生徒寮に設置されているもので、いくら俊足の部員が往復しても3分はかかる。今回、キャンパス内にAEDの増設をすることとなり、硬式野球部練習場もその対象場所となった。スタッフルーム入り口すぐのところに常設され、救急救命措置の講習を受講したスタッフ全員が、万が一いつでも使えるようになり、部員たちにもそのことが知らされた。

12月13日

待望の到着!! 本格的ウエイトトレ開始



卯瀧先生がこの冬から取り組みたいとしていた大きな柱に「ウエイトトレーニング」があり、4月から世話になっているコンディショニングコーチとも相談の上、これまでグラウンドにはほとんどなかったトレーニング器機が購入され、このほど室内練習場に届いた。

いずれも体幹を鍛える基本的な種目が主だが、今までは個人の判断に任されており、しかも学校のトレーニングルームを利用するしかなかった。現在は部員を4つのグループ

に分け、効率よくトレーニングが回るようメニューが組まれている。

12月9日

来月は増量!? 月間1万本ティー打撃



今月初めから始まった「月間1万本ティーパッティング」。単純計算で行くと1日300本強で、基本的には休養日がないことから無理な数字ではない。ただし放課後練習の限られた時間では、よほどの集中力を発揮しないと厳しい。勿論部員のクラブハウスには棒グラフが大きく掲示され、各自の達成度合いが一目でわかるようになっている。今まで指導してきたチームでも全て同様にしてきたとする卯瀧先生だが、始まって10日ほどだが「この子たちの短時間集中力はやはりすごいものがある。居残り自主練も熱心だし、全員が軽くクリアするのでは...。来月は1万5千にしようか」と、部員には聞きたくもない感想が聞こえた。

12月3日

先輩たちの「日本一」!! ユニブ優勝



ある日のスポーツ新聞を大きく飾る「大学生の甲子園日本一」。大学・大学院・短大生による軟式野球トーナメント・第18回ユニブ・ベースボール決勝大会での立命館ピストンズ優勝が報じられている。掲載メンバーをよく見れば、レギュラーのほとんどが本校卒業生で、3年前のセンバツ出場学年のOBたち。11月22日に舞洲スタジアムで行われた決勝ではHALUKを2-0で完封勝ちし、優勝した。主将の藤本翔、最優秀選手・岩本達哉もOBで、特に岩本先輩のコメントには大学でともに学ぶメジャーリーガーの大家友和投手直伝のツーシームが有効に使えたとある。硬式野球ではないが、様々な形で野球を続ける先輩たちの活躍を見ることが出来るのは嬉しいことである。

## 2007年11月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

11月18日

寒風の中、北桑田高校記念試合



卯瀧先生の母校・京都府立北桑田高校野球部が創部50年を迎え、記念イベントの一環として、同校グラウンドで試合が行われた。秋のレギュラーメンバーの中にはこの日フランス語検定受検者がおり、後期中間テストを翌日に控えているため、レギュラー3名を欠き、15名で参加した。

朝の最低気温が3度という宇治市内からは考えられない気温と時々見舞われる時雨の中、地元の人々がたくさん応援に駆けつけ、プレーボール。前日にキャッチボール程度の練習しか行えなかったが、何とか無事に終えられた。

11月11日

実質今シーズンの最終戦、連勝で幕



18日に北桑田招待試合を控えているが、全メンバーでは挑まないため、本日の変則ダブルヘッダーが今シーズンを締めくくる最後の練習試合となった。愛知と滋賀の両県のチームと試合に連勝し、これで9月以降の練習試合・公式戦・洛南交流試合の敗戦は3ヶ月で1敗（10月1日・対平安）のみとなった。8月の一ヶ月で12敗した投手陣壊滅状態からは脱し、粘り強さも発揮できるようになってきた。

春の練習試合・公式戦を楽しみに、トレーニングに励まなければならない。

11月4日

新戦力の登竜門!! 洛南交流試合



10月の最終末と11月最初の土日は恒例の洛南交流試合。ともに好天に恵まれ、秋季大会では出番のなかった選手にもチャンスが与えられた。予選ブロック3試合を全て終了し、3戦全勝31得点2失点の結果であったが、今までチャンスがなかった上級生がどこまでアピールできたか。一冬越せばまたブラッシュアップされることも期待されるが、今度は将来も考えて新入生にもある程度試合を経験させなければならない。

この交流試合は今年がら秋に予選リーグのみを行い、決勝トーナメントは翌春、太陽が丘球場を使用して行われることになっている。

平成19年度

## 秋季京都府高等学校野球大会 速報

2次戦

10月1日(月) 準々決勝 対平安 (西京極球場)

### 粘り腰発揮も後一步及ばず、涙

○平安 130 011 100 000 01=8

●立命館宇治 210 011 020 000 00=7 (延長14回)

【平】川口、小林、松田-児玉【北】吉田-大崎

▼本塁打 児玉(平) ▼3塁打 中野翔(立) 丸本、  
浮木(平)

▼2塁打 ) 丸本、浮木(平) 市川、山口、吉田  
(立)



延長に入ってから行進が続く緊迫した展開となったが、14回1死から右越えの3塁打と三遊間を破られ、決勝点を奪われた。

立ち上がりは共に持ち味を発揮した展開となり、1点を先制された初回には足技ですかさず逆転、2点差とされた2回も2番・鄭のタイムリー、三度離された5回には4番・市川の左前打、四度離された6回には再び鄭の左前打で常に2点差以内で終盤へ望みを繋いだ。

立命館宇治にとって望んでいた展開になった8回には足技と相手ミスでついに待望の同点に追いついた。

しかし同点に追いついてからチャンスに一本が出ず、9回1死3塁、10回2死2塁、12回2死2塁、13回2死1・2塁と好機が続いたが無得点に終わった。1点を先行された14回も2死2・3塁の一打逆転サヨナラの場面となったが、内野フライに倒れた。

放った安打は平安20に対して立命館宇治は18。立命館宇治は序盤の守備の乱れで打ち取りながら追加点を許した場面が響いた。

※写真は4点目のタイムリーを放った市川怜央(2年)

9月23日(日) 2回戦 対北稜 (福知山球場)

### 先制、中押し、ダメ押しの集中打!!

○立命館宇治 300 200 4=9

●北稜 000 000 2=2 (7回コールドゲーム)

【立】吉田-大崎【北】山脇-中村

▼3塁打 中野翔、金子(立) ▼2塁打 鄭(立) 山

脇（北）



立命館宇治は初回、先頭の中野翔が右中間を破る三塁打でチャンスを作ると、2番・鄭の左越え2塁打で難なく先制。続く金子がセーフティバントでチャンスを膨らませると、4番・市川の鮮やかな右前打や内野ゴロで計3点を先制した。

4回には2死2・3塁から5番・山口が追い込まれながらも中前へ弾き返して中押しし、7回には死球に長短3安打を集中してダメ押しの4点を入れ、勝負を決した。

立ち上がりから北稜の好投手・山脇を果敢に攻めたが、スリーバントアウトを2回記録するなら、詰めに甘さがあった。

吉田は1次戦ほどの球威はなかったが、序盤戦は丁寧な投球で打たせた。コールドゲーム成立寸前の最終回に2四球と長打で2点を入れられるなど、課題も残った。

※写真は初回到左越えの先制2塁打を放った鄭（2年）

## 1次戦

9月9日（日） ブロック決勝戦 対京都国際（立命館宇治）

### 強打・京都国際を5安打に封じ込め

○立命館宇治 100 010 000 4=6

●京 都 国 際 000 200 000 0=2（延長10回）

【立】吉田-大崎【京】申斗-鄭

▼3塁打 李油（京）大崎（立）



延長に入った10回、立命館宇治は1安打2四球でつかんだ1死満塁のチャンスに4番・市川の内野ゴロで3点目をあげ、7番・山口の内野ゴロが相手失策となり幸運な追加点を奪った。ここで6番・大崎が追い込まれながらも左中間を豪快に破る3塁打を放ち、勝負を決した。

初回到ワイルドピッチで先制したが、逆転された直後には2死3塁から1番・中野翔のタイムリーですかさず同点にするなど、初戦と同じく我慢強い闘いぶりが光った。

先発した吉田は強打でならず京都国際を相手に、ストレートを見せ球にして変化球を巧みに配し、5安打2失点に封じ込めた。三遊間の深い当たりを再三アウトにした内野手や深い当たりを背走して好捕した外野手の堅守が光った。

※写真は10回裏にマウンドに集まる内野陣

8月26日(日) 2回戦 対西城陽 (立命館宇治)

## 1点の攻防!! 逆転サヨナラで制す

●西城陽 001 001 001 001=4

○立命館宇治 100 000 011 002=5X (延長12回)

【西】上原-西村【立】吉田、中野翔-大崎

▼本塁打 西村(西) ▼3塁打 高取、小西(西)

市川、中野翔(立) ▼2塁打 光田、本郷、杉原

(西) 寺川(立)



6回以降、常に追いかける苦しい展開となった立命館宇治は、延長12回裏、無死から3番・金子、4番・市川の連打と相手失策で満塁のチャンスを作ると、続く6番・大崎が追い込まれながらも中前へ弾き返し、二者を迎え入れて逆転サヨナラ勝ちを収めた。

初回到2死2塁から4番・市川の右中間3塁打で先制したが、その後は先の選手権京都大会でベスト4進出の原動力となった西城陽エース上原に封じ込められた。1点を追う8回には内野ゴロで、3度リードを許した9回裏は1死3塁から金子の犠飛で食らいついた。

ディフェンスは1失策(投手の牽制悪送)で盛りたてたが、失投を逃さない西城陽打線に13安打を浴びた(立命館宇治は14安打)。しかし常にリードを1点で抑え、何とか同点劇を繰り返し、最後にひっくり返した粘りは価値あるものとなった。

※写真は先発し、8回1/3を投げた吉田奨(2年)

### 1次戦メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	出身チーム	投	打
1	投	吉田 奨	2	山崎東(兵庫)	ボーイズ・一宮キングボーイズ	右	右
2	捕	大崎 将利	2	高針台(愛知)	シニア・名古屋北	右	右
3	一	鄭 晋吾	2	寝屋川六(大阪)	ボーイズ・大阪東淀川	右	左
4	二	中野 翔太	2	安祥寺	ボーイズ・京都ファイターズ	右	左
5	三	山口 拓也	1	浅香山(大阪)	ボーイズ・ジュニアホークス	右	右
6	遊	金子 侑司	2	西院	ボーイズ・京都ライオンズ	右	両
7	左	寺川 幸佑	2	香住一(兵庫)	ヤング・但馬BBC	右	左
8	中	市川 怜央	2	四条畷(大阪)	ボーイズ・大東畷	右	右
9	右	岡島 悠裕	2	吹田二(大阪)	ボーイズ・箕面	左	左
10	内	清水 勝貴	2	洛南	ボーイズ・京都スターズ	右	右



11	投	仲林 正紘	2	港 (三重)	ボーイズ・伊勢ジャガーズ	右	右
12	内	森 飛鳥	1	久居 (三重)	シニア・津	右	右
13	外	藤井 直也	1	桜丘 (大阪)	ボーイズ・交野	右	右
14	内	梅本 英弥	2	広陵 (奈良)	ボーイズ・葛城	右	左
15	捕	森内 幸司	2	報徳学園 (兵庫)	ボーイズ・兵庫尼崎	右	右
16	投	中野 修	2	有野北 (兵庫)	ボーイズ・兵庫神戸	左	左
17	投	田村 知一	1	市岡 (大阪)	シニア・大正	右	右
18	内	小林 和路	1	精華西	シニア・奈良	右	右

[硬式野球部 TOP PAGE](#)へ

## 2007年10月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

平成19年度 秋季京都府高等学校野球大会 特集

10月24日

藤原大輔先輩がベストナインに選出



立命館大学硬式野球部で活躍する藤原大輔先輩（産業社会学部3回生）が秋季関西学生野球リーグのベストナインに選出された。外野手として1番または3番を任されていたが、開幕週の京大戦では関西学生野球史上初のサイクルヒットを記録するなど、勝負強さが光った。高校在学中の真摯な野球に対する姿勢と見事なキャプテンシーは、史上初の選拔出場という形で結実したのは記憶に新しい。なお、今リーグ戦では4番・日岡拓也先輩（同4回生）に加え、後半戦には稲川佳佑先輩（同3回生）もレギュラーを勝ち取り、エース黒田巖域先輩（同4回生）が先発する時は、スコアボードに立命館宇治出身者が4名並ぶこととなった。

※写真提供 立命館大学硬式野球部HP

10月21日

もう一度、練習環境を整えて



2週連続で練習試合の入らない日曜日となった今日は、先週に引き続いて「練習環境の整備」から始まった。まずは最近全く手を付けていなかった雑草の駆除。夏の間はかなり伸びており、フェンス添いを中心に手分けして行われ、ゴミ袋十数枚が満杯になった。またネットも老朽化しているものもあり、その修繕も行われた。練習後のミーティングでは練習環境や道具管理、ゴミ問題について、卯瀧先生より話があったが、最近そういう部分がおそろかになっていたかも。この活動は来週末も行われる予定である。

10月19日

学園祭幕間に先輩・後輩コンビ登場



10月19日、文化パルク城陽で行われた学園祭初日のステージ発表で、幕間に硬式野球部員のパフォーマンスがあった。写真は奈数光（3年）片野田義人（2年）の漫才。かなり入念なネタ合わせをしている絶妙さで、後輩が先輩の顔を張り飛ばす場面も。また次の幕間には水侍恭介（2年）も加わり、後半には3年の山口雄三がコントを披露した。



2年前には当時の3年生部員が幕間を担当し、会場を沸かせたが、決して伝統となっているわけではない。物怖じせずに堂々とパフォーマンスできる度胸は素晴らしいが、それが次には野球の場面で発揮してもらいたい。

※写真提供 情報研究部

## 2007年9月度のトピックス

硬式野球部 TOP PAGEへ

9月26日

準々決勝に向けて、3年が助っ人に



準々決勝の対戦相手が決まり、3年生の左投手2名が打撃投手に名乗りを上げてくれ、連日後輩たちに協力してくれている。山田遼摩先輩と松島駿介先輩はともに今年度の京都高校球界では屈指の存在であっただけに心強い。ただ闇雲に投げるのではなく、24日の太陽が丘で観戦した卯瀧先生から、球筋などの注文が出されている。勿論現役の左投げも総動員で、打撃練習が出来るナイター照明があるとはいえ、短時間で効率よく回れるように、フリー打撃を通常の3箇所から4箇所に増やしている。京都国際戦同様、先輩たちには勝つことで恩返ししたいものだ。

9月25日

打線にパワーを送る!! カメハメ波



写真は北陵戦の試合前にスコアラー用のデスクに置かれたミニチュアのフィギュア。人気アニメのドラゴンボール主人公の悟空がカメハメ波というポーズをとっている。夏の大会で次の対戦相手の偵察のためにチームを離れた里井コーチが、「これで打線にパワーを送れ!!」と当時の山口主務に託したもの。その試合ではこのフィギュアがデスクに置かれた6回以降、打線に火が付いた。「今回は最初から行きます」と神橋スコアラーが試合前からスコアブックの横に。試合は初回から打線が爆発し、大量点へとつながった。ちょっとした茶目っ気である。

9月19日

いつも通り!! 2次戦抽選会に挑む



1次戦の抽選会は夏の選手権京都大会と同時に行われるので、学年を代表して清水勝貴（主務）がクジを引いた。1次戦を突破し、いよいよ2次戦の抽選会を迎えたこの日は中野翔太新主将の出番となった。石川部長と会場に乗り付けた主将は特に緊張感もない様子。大物なのか、こういうことに無頓着なのか、各校主将の緊張感溢れる表情とは対照的であった。対戦相手が北稜と決まり、石川部長から「いきなり練習試合で負けた相手との対戦やなあ」と声をかけられると、「そうでしたっけ?? 北稜とやりましたっけ??」と返答。まっ、大物ということにしておこう。

9月8日

海外研修旅行から帰国、即呼び出し



秋季大会1次戦ブロック決勝に向けて、週末に海外研修旅行から帰国した3年生・三好優太先輩に、スタッフから「疲れているだろうが、是非バッティング投手をお願いしたい」と練習参加要請があった。対戦相手の高めに浮くスライダーをシート打撃でねらい打つため、三好先輩も金曜、土曜と連続で打撃投手を務めに来てくれた。現役時代から制球力と変化球の切れは抜群。卯瀧先生曰く「今、このチームに三好がいれば...」というその存在は、後輩に力を与える。恩返しは京都国際を攻略し、2次戦進出を果たすことである。

## 2007年8月度のトピックス

8月23日

北村校長、秋季大会前のナインを激励



かねてから卯瀧先生とナインを激励したいと申し出ていた北村勝校長が、忙しい合間を縫って、三室戸のグラウンドを訪れた。部長はあらかじめ聞かされていたが、ナインは「んん?? 校長先生??」と驚きの挨拶。卯瀧先生からは早速練習を中断とベンチ前への集合がかかり、校長から厚い激励を受けた。北村校長はこの夏に全国の舞台で活躍した立命館宇治高生の話題にふれ、「日本で最も注目されるスポーツである野球に対する期待は学園全体の中でも非常に高い。是非とも来るべき秋季大会でも頑張っ欲しい」と語られた。

8月15日

盆の里帰りで「恩師」を訪ねる



1塁ブルペンで投手に指導しているのは本校のOBではない。北嵯峨時代の卯瀧先生の教え子のひとり。平田憲広投手（30）は1年秋より2年間北嵯峨のエースとして優勝2回を経験し、その後京都産業大学でも当時の六大学新記録28勝を上げた。三菱自動車岡崎を経て現在、日立製作所で現役選手として頑張っている。この日は卯瀧先生の要請によりグラウンドを訪れ、投手を指導してくれた。

GWにも社会人や大学で活躍する北嵯峨や鳥羽時代の教え子が訪れ、立命館宇治の部員の前で「生きた手本」を示してくれた。これもまた卯瀧先生の「指導」なのである。

8月11日

「夏風邪」との闘い!? 広島県遠征



8月に入ってから夏風邪をひく部員が出始め、愛知県遠征では不参加者や途中で発熱する者も出た。その教訓を生かし、広島県遠征前に石川部長は「発熱している者は完治してから遅れて参加しなさい。また遠征途中に発熱した者はそのままチーム帯同させずに、新幹線で京都に戻ってまいります」と宣言していた。しかし予感悪い方に当たってしまった。発熱のため遅れての参加が1名。2日目の午前に2名、午後から1名、最終日の朝に1名といずれも38度以上の高熱を訴え、それぞれが宿泊先や試合会場から部長と共にタクシーで広島駅まで行き、新幹線へ。

遠征後半から若干チームが立て直ってきつつあるだけに、これ以上の蔓延しないように願いたい。

8月6日

試練の他府県遠征!! 失点ダッシュに挑戦



地元チームとの練習試合を終え、愛知県～広島県への遠征へと突入した。やはり今までの相手とは手ごたえが異なる。特に投手陣は経験不足を露呈し、壊滅状態に。「甲子園100勝記念碑」【写真】の中京大中京などに胸を借りた愛知シリーズでは4試合で31失点となり、19得点しても逆転される有り様。1失点につき50メートルダッシュ10本の失点ダッシュは310本。京都に帰着後、夕闇の中で何とか210本を走った。中一日おいて、広島シリーズが始まるが、投手陣の奮起に期待したい。

8月1日

8月前半、23試合のオープン戦開始



7月に絞り込みノックなどで鍛え直し、いよいよ練習試合が始まった。夏の大会のメンバーが数人残るとはいえ、後は全くの未知数。試合の中でどのような動きができるのかをこの期間に見極める。8月の前半だけで組まれた練習試合は遠征も含めて「23試合」。「ちょっと組みすぎたかなあ」と卯瀧先生も苦笑いだが、勿論休養日の予定はなく、ダブルヘッダー後も日が沈むまでみっちり練習が行われている。この連戦を乗り切った後、チーム編成はどのようになっているか、チームはどのように変貌しているか楽しみである。

硬式野球部 TOP PAGEへ

7月23日（月）<大会第10日> 4回戦 対京都すばる（西京極球場第1試合）

## 相手上回る12安打も3得点に...

○京都すばる 005 000 100=6

●立命館宇治 000 200 001=3

【京】中村-西村【立】山田-大崎

▼3塁打 大崎（立）▼2塁打 木村、中村（京）

### 【試合経過】

立命館宇治はチームの根幹であるディフェンスが序盤に乱れ、3回に5点を与えるビッグイニングを献上し、今大会初めて相手を追いかける展開となった。

4回には1死1・2塁から7番・大崎が右中間を破る3塁打を放ち2点を返し、相手打線を上回る12安打を放ち、5回から毎回スコアリングポジションに走者を置きながら、決定打に恵まれず、3得点に抑えられた。

一方、過去3試合は安定感を欠いた山田は、今大会最高のピッチングを展開。9イニングを三四球、8奪三振と意地を見せ、バックの反撃を待ったが報いられずに終わった。



この日からスタンドにはチアと部ラパンが応援に



山田はここ一番で今大会最高の投球で迎え撃つ



頼みのディフェンスが乱れ、序盤に大量失点



「まず2点を返そう」と卵瀧監督のアドバイス



期待に応えて、7番・大崎が右中間2点タイムリー3塁打



9回には意地の1点を返したが、反撃もここまでだった

7月20日（金）<大会第7日> 3回戦 対久御山（宮津球場第2試合）

## 少ない安打を効率よく得点に!!



●久 御 山 000 000 00=0

○立命館宇治 201 010 03=7X (8回コールドゲーム)

【久】森野、岡本-糸井【立】山田-大崎

▼本塁打 市川 (立) ▼2塁打 松本 (立)

#### 【試合経過】

立命館宇治は初回、2番・中野翔が四球で出塁すると、盗塁と捕逸で三進し、続く3番・金子の内野安打で先制し、なおも続くチャンスに6番・末永が1・2塁間にはじき返して2点目を加えた。3回には5番・市川が左越えへ大会第19号本塁打で加点した。5回に相手失策で4点目を加えると、8回には2死1・2塁から1番み・松本が左翼線に2塁打を放ち、相手失策も絡まって、コールド得点差とした。全体的には5安打であったが、うち4安打がタイムリーと効率よい攻めとなった。

先発の山田は今大会一番の安定感を示し。被安打1、四死球3の0封であった。



初回、3番・金子が脚を生かした内野安打で先制



続く6番・末永の1・2塁間を抜く安打で2点目



3回には5番・市川が豪快に大会第19号を放つ



山田は7回まで無安打に押さえる好投



今日も堅守!! 3試合で1失策



7回には松本が左翼線タイムリ

7月18日 (水) <大会第5日> 2回戦 対大谷 (西京極球場第3試合)

## 序盤から大技小技で猛攻

○立命館宇治 012 016=10

●大 谷 000 000=0 (6回コールドゲーム)

【立】山田、三好-大崎【大】川原崎、藪下-林田

▼3塁打 中野翔、金子、松島 (立) ▼2塁打 大崎 (立)

#### 【試合経過】

2回2死3塁から7番・大崎のタイムリーで先制した立命館宇治は、続く3回には1死1・2塁から3番・金子が鮮やかに右中間を破り2点を追加。続く5回には2死2塁の走者・金子が捕逸の間に快足を生かして一気にホームインして4点目。続く6回には長短4安打を集中し、6点を追加して一気にゲームを決めた。

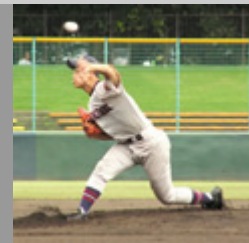
先発した山田は1回戦よりはリズム感があったが、被安打2の7四死球で安定感があるとは言いが、上り調子である今後に期待したい。



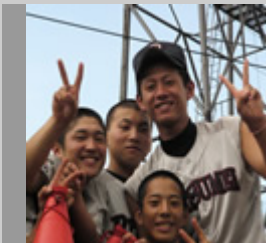
2回、7番・大崎が先制タイムリー



続く3回には3番・金子の鮮やかな右中間



1回戦よりはリズム感があつたが....



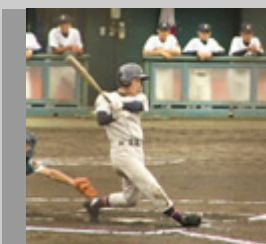
序盤の得点にスタンドもちょっと余裕



5回には捕逸で金子が脚力を生かして一気に生還



山田は1塁牽制で走者を2度刺した



6回、9番・吉田の犠牲フライ



ようやく出た1番・松本の今大会初安打



6回は夏初登板の三好が締めくくった

7月15日(日) <大会第2日> 1回戦 対峰山 (太陽が丘球場第1試合)

## 不調エースを打線がカバー

○立命館宇治 204 020 0=8

●峰山 100 000 0=1 (7回コールドゲーム)

【立】山田-大崎【峰】岡田、山野、岡田-木村

▼3塁打 吉田(立) ▼3塁打 末永2(立)

### 【試合経過】

初回2死満塁のチャンスに6番・末永が右越え2塁打を放ち2点を先制した立命館宇治は、3回には5番・市川、6番・末永の連続タイムリーと相手失策でさらに4点を追加し、試合の大勢を決めた。5回には2死1・2塁から9番・吉田が右中間を破り、試合を決定的にした。

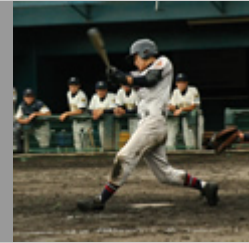
一方、先発した山田は制球に苦しみ、被安打2ながら、四死球7と大荒れし、得点差を感じさせない投球となった。早い回から得点し、無失策で盛り上げたハックに助けられた投球であった。



初回、6番・末永が右越2塁打を放つ



この当たりで松島ら2者が生還



3回には5番・市川のタイムリーで追加点



2番・中野翔はチャンスメーカーとなった



6番・末永は3安打の猛打賞



5回には9番・吉田が右中間へタイムリー3塁打



山田は大量点をもらいながらも制球に苦しむ



スタンドからは仲間が懸命の応援



7回コールドゲームながら不完全燃焼の勝利

## 大会登録メンバー

番号	守備	名前	学年	出身中学	投	打
1	投	山田 遼摩	3	高槻六 (大阪)	左	左
2	捕	大崎 将利	2	高針台 (愛知)	右	右
3	一	吉田 啓悟	3	木 幡	右	左
4	二	中野 翔太	2	安祥寺	右	左
5	三	松本 陸	3	旭 丘	右	右
6	遊	金子 侑司	2	西 院	右	両
7	左	末永 大将	3	東海大仰星 (大阪)	右	右
8	中	松島 駿介	3	鎌 田 (三重)	左	左
9	右	市川 怜央	2	四条畷 (大阪)	右	右
10	投	上田 悠介	3	三 郷 (奈良)	右	右
11	投	中野 修	2	有野北 (兵庫)	左	左
12	捕	小西 謙斗	3	蒲 生 (大阪)	右	左
13	外	井上 彬	3	洛 南	右	右
14	内	鄭 晋吾	2	寝屋川六 (大阪)	右	左

15	内	山口 拓也	1	浅香山 (大阪)	右	右
16	内	清水 勝貴	2	洛 南	右	右
17	投	三好 優太	3	東海大仰星 (大阪)	右	右
18	外	岡島 悠裕	2	吹田二 (大阪)	左	左

[硬式野球部 TOP PAGE^](#)

## 2007年7月度のトピックス

### 第89回全国高等学校野球選手権京都大会 特集

7月26日

強力な戦力となりうるか!? 自動散水機



梅雨が明け、夏の本格的な太陽が照り続けると、黒土のグラウンドも埃が舞い、頻繁な散水を行わなければ近隣にも迷惑がかかる。ところがマウンド後方の散水栓にホースをつなぎ、内野一面に水をまいても瞬く間に乾いてしまう。そこで今回購入されたのが写真の自動散水機。強力な水圧で水を飛ばし、ゆっくりと360度回転する。一周も回ればグラウンドはかなりの保湿状態となり、人間の手は一切かからない。真夏の練習の「強力な戦力」になりうる。

7月26日

3年生が大挙して後輩指導に



夏の大会が終わって現役選手を引退した3年生7名がグラウンドに顔を出し、後輩達の指導にあたってくれた。卯瀧監督は最初の1週間で絞り込みのノックを行いたいという意向をもっており、全員が交替でノッカーを務めてくれた。今まで現役を引退すると大学でプレーを続ける一部のメンバーが顔を出すことはあったが、「後輩のために」と来てくれることはあまりなかった。これも卯瀧監督がもたらした新しい伝統か。

7月23日

夏の敗戦、即日午後「新チーム」スタート



大会に敗れ、更衣室から10分で退出し、全員グラウンドに戻り、3年生を中心にミーティングを開き、その後「中野翔太新主将、市川怜央副主将」が発表され、新チーム練習がスタートした。

たっぷりボール回しが行われた後、シートノック。そしてランエンドヒットが繰り返し行われた。今日の試合の先発メンバー5名が残るが、投手は全くの白紙状態で、今月30日から始まる練習試合で全員が秋のメンバー入りを目指してしのぎを削る。

7月19日

宿泊ホテルの「不敗伝説」を死守



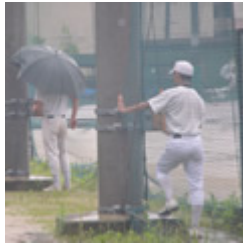


3回戦は宮津球場第2試合となったため、宮津市内のホテルに宿泊することが抽選が終わった段階で確認されていた。翌日の試合に備えて宮津入りした部員はびっくり。翌日第1試合のためにホテル入りしていた京都外大西ナインと同宿。夕食はともに屋上でのバーベキューであったが、どこのチームにもいる「芸達者」が漫才を披露。これには立宇治ナインもしばし聞き入り、和やかな雰囲気。

ホテルによれば「今大会でうちのホテルに宿泊したチームは全て翌日の試合では勝ってます。外大西と立命館宇治も絶対に勝ちます」とのこと。翌日の第1試合で京都外大西が海洋を下し、最後の砦となった立宇治が「不敗伝説」を死守した。

7月13日

週末の台風到来、雨中の準備



週末に大型台風の襲来が予想されている。一方で大会開幕も控えており、本校ならずとも全国の高校球児にとっても悩ましい天候。このグラウンドでは何度も行われている「台風準備」であるが、一昨年の台風当たり年以来のネット降ろしの作業が、ベンチ入りメンバー以外の部員で行われた。降りしきる雨の中、全員がタイミングを合わせながらネットを降ろさなければならない。山口主務の号令の元、段取りよく行われ、また強風に飛ばされそうなネット類も近隣に迷惑がかからないように倒された。

7月13日

大学コーチの中村秀典氏が練習視察



立命館大学硬式野球部コーチの中村秀典氏が、この日室内練習場を訪れ、練習を視察した。来春入部希望の3年生部員の実力チェックが目的で、2年前まで現役であった里井祥吾コーチと談笑しながら、投手陣を中心に熱い視線を送った。最近は毎年のように大学でメンバー入りする卒部生が出てきており、大学としても現段階でのチェックは欠かせぬところ。

夏の大会が終われば、大学入部希望の3年生は大学の練習に2~3日参加し、松岡監督や中村コーチから面談を受け、入部が許可される。付属校出身であっても厳しい環境に飛び込む「覚悟」は問われる。

7月7日

総勢180名で夏の激励会を実施





選手権京都大会の組み合わせも決まり、いよいよ初戦まで後1週間となったこの日、パルティール京都で恒例の激励会が行われた。56名全部員とその保護者や家族が参加し、大きな会場は200名近い参加者で一杯になった。OBや同窓会からも激励に駆けつけてくれ、最後は3年生の決意表明。夏の大会での活躍を誓う者、両親への感謝の気持ちを述べる者と様々であったが、中には雰囲気をもたせるパフォーマンスもあった。最後は卯瀧先生の「大会に不安なしで挑めるのかといえば、今年はそうではない。しかし夏の大会はひとつひとつの勝利が選手をさらに成長させてくれるものである。これからも特別ではなく、いつも通りの生活を心がけ、大会に挑まなければならない」と締めくくった。

7月2日

「私の定位置」 1塁側にブルペン2箇所



打撃練習が始まれば里井コーチにほぼ任せ、ブルペンに張り付く卯瀧先生だが、かねてから「バックネット裏1塁側近辺にブルペンがほしい」と要望していた。「この位置からだと投手の投球にも打撃練習にも目がいく。北嵯峨でも鳥羽でもそこが『私の定位置』だったんだが」というもの。今回、どうせなら本格的なものと大学管財課に依頼し、2人が同時に投げられるブルペンが完成した。植樹を植え替え、また投手プレートは民家の間近となるため、該当民家の了解は絶対必要であったが、「私たちの願いはまた野球部が甲子園に行ってくれること。全面的に協力させてもらいますよ」と逆に励ましのお言葉を戴いた。

硬式野球部 TOP PAGE^

## 2007年6月度のトピックス

6月30日

抽選結果「申し分なしです!!」



6月30日に行われた選手権京都大会の抽選会に松本陸主将が挑んだ。今大会はノーシードの強豪校が多く、抽選結果が注目されたが、初戦は春季大会1回戦の峰山との対戦となった。勝ち進めば2回戦・大谷、3回戦・久御山など息の抜けない相手が続くが、松本主将は「良いところを引けました。申し分なしです」と力強く語った。

来月からはこのトーナメントを見据えた調整練習に入るが、目標がはっきりしただけに、闘志は自然と燃え上がってくるはずである。

6月25日

兄貴（高校）が遠征の時は弟たち（中学）が



6月中下旬からの日曜日の練習試合は全てアウェイ。全員移動が原則のため、当然三室戸のホームグラウンドは空き状態となる。中学野球部からの要望もあり、高校がアウェイの時は中学野球部に使ってもらうこととなった。同じキャンパスで高校生に憧れ、同じユニフォームを着て頑張る弟みたいなもの。すでに1～2年生には中学野球部出身の者が4名いるが、この中から一人でも多く入部し、高校の野球部でメンバーに入ってもらいたい。

※写真は6月17日の神川中学との練習試合後のもの。

6月21日

知ってますか!? 先輩なんですよ



今年も11日から大学より教育実習生が「教師の卵」として本校で学んでいる。大学ではアメリカンフットボール部に所属しているが、森脇陽平実習生はれっきとした硬式野球部OB。高校時代は2～3年と2年連続で夏の大会で準優勝を経験したメンバーのひとりである。夏の大会終了後に大きな身長を見込まれ、「筋力は大学へ来れば必ず付く。是非アメリカンフットボール部へ」と誘われ、野球に見切りをつけてパンサーズの一員となった。

硬式野球部OBの教育実習生はこれで5人目。しかし実際に教員になった者はまだおらず、早くOB教員第一号が誕生してほしい。

6月17日

アウェイで初のバス2台移動



この日曜日から夏の大会まで、日曜日の練習試合は全てアウェイとなっている。移動手段の基本は貸し切りバスだが、部員数は58名。これにスタッフが加わって試合用の道具もとなれば、60人乗りの大型バス一台では厳しい。そこで全て大型と中型の2台を予約し、移動することになっている。この日は選抜に出場した兵庫県市川高校での変則ダブルヘッダー。出発は8時と自宅生にとっても比較的余裕のある時間であったが、来週以降は6時半出発が基本となる。宿泊を伴う遠征は年に1度が基本だが、朝6時出発が可能になれば、練習試合の相手はかなり広範囲まで可能になる。

6月13日

1年生だけで練習 果たして実力のほどは??



本日は学校行事とのかねあいで、放課後練習の開始から2時間ほどは1年生のみでの練習となった。卯瀧先生からの指令は、攻撃の根幹であるヒットエンドラン。さすがに先輩の練習をみているだけあって、投手や野手の交替はスムーズに行えていたが、ヒットエンドランとわかっているのに見逃す場面が散見され、上級生のようにはいかないなあというのが正直な感想。また最後には里井コーチによるシートノックも行われた。高校野球のスピードにも馴れてきている者もいるが、夏の大会が終われば、この中から何名かがメンバーに加わらなければならないのである。

6月7日

そういえば今までなかった...。時計



10日ほど前に卯瀧先生がポツリとひと言。「練習中にみんなから見える位置に大きな時計があったら便利なんやけどなあ」。確かに今まで練習中の時間確認がはスタッフと主務の腕時計やストップウォッチが頼りであった。ラブハウスの外壁に時計があれば確かに便利。しかし風雨やホコリにさらされる「屋外用時計」は売ってそうで売っていない。今回は部長がインターネットで探し、岐阜の時計店から取り寄せた。この日、晴れてクラブハウスの入り口に掲げられた。

6月7日

テスト終了し、強化期練習本格的再開!!



前期中間テスト前も最中も練習メンバーを中心に個人ノックを中心に守備練習だけは続けられてきたが、本日でテストも終了し、全員練習が始まった。やはり全員揃うと活気が違う。午後からの半日練習となったため、恒例の個人ノックに加え、打撃練習も行われた。「久しぶりに怒鳴ってしまおう」という卯瀧先生の「まだまだ俺の思う動きになってないし、練習になってない!!」というマイク片手の指示が、グラウンド全体に響き渡った。この日は午後から雷雨の予報であったが見事にはずれ、夏の太陽となったが、部員は汗びっしょりになりながら練習を終えた。

硬式野球部 TOP PAGEへ

## 2007年5月度のトピックス

5月28日

優勝かかる大一番を観戦 立同1回戦



毎年のように大学で活躍する先輩たちを応援するために西京極球場へかけつけるが、今年は気合いが入る。久々のリーグ優勝がかかり、それもエース黒田（4回生、副将）4番打者・日岡（4回生、副将）1番打者・藤原（3回生）がスタメンに名を連ね、1塁ベースコーチに上内、ブルペンでは中田（ともに2回生）と先輩が続けば、高校生も気合いが入る。テスト前のため練習メンバーに厳選しての観戦となったが、目の当たりにした大学野球は現役部員にどのように映ったか。結果は黒星となったが、残り試合に連勝し、是非とも優勝してもらいたい。

5月24日

卯瀧流5 「ノッカーの心」を教える



ディフェンス強化期のノッカーは練習メンバー以外の上級生が務めることになる。内野4箇所と外野2箇所。しかし選手からいきなりノッカーに転じると、闇雲に強い打球を打ちたがったり、とうてい捕れないような打球に飛び込ませ、受ける選手のユニフォームが汚れることで満足することがある。そこで卯瀧先生は、ノッカー全員にノックバットを新規に与え「ノッカーの心」を諭した。「ノックは愛情込めて打ちなさい。一球たりともいい加減な打球があったり、傲慢さが出るような当たりがあってはならない。『どうかこの打球で上手くなってくれ』という心が大切である」と。3年生の愛情こもった打球がチーム力を向上させるのである。

5月23日

卯瀧流4 4週間の強化期に突入



部員互選に練習メンバー絞り込んだのは、この時期から夏に向けて徹底的にディフェンスを鍛えるのが目的である。打撃練習はティー打撃のみ。練習は個人ノックから始まり、ノルマは内野が連日150本で、外野は100本。ノッカーを大勢配し、短時間集中で行う。また個人ノックの後には里井コーチによるシートノックが続き、続いて投手のフィールディングが矢継ぎ早に行われ、終われば間髪入れずに捕手のスローイングとなる。「練習試合もあるのでフリー打撃もさせたいが、まずはディフェンスから。ディフェンスが完成すればいつでも打撃は再開する」（卯瀧先生

談) だが、夏の大会から逆算して4週間を強化期と設定している。

5月22日

卯瀧流3 ベンチに腰を下ろす順番



ベンチで最もアドバイスを送らなければならないのは、バッテリー。しかし攻撃の時にアドバイスを送りたくても離れた位置に座っていたのでは、必要な会話もままならない。そこでこの日は監督の定位置の横に記録員（主務）を座らせることに加え、その横から投手～捕手～内野手...と順番に座らせた。「そうしなければならないという決まりではないが、自分はこの方がベンチワークがしやすい」と、以降も義務づけられた。また球場内での動き方にもこと細かにアドバイス。全ては公式戦～全国大会を意識してのもので、大会で余計なことで注意を受けることがないように「今のうちに習慣づけることが大切」なのである。

5月22日

卯瀧流2 部員全員で相手校に乗り込む



就任当時から練習試合の予定表を見て「ホームでの試合が多すぎる。もっとアウェイを経験させなければチームは遅くならない」という持論を展開していた卯瀧監督。グラウンド条件に恵まれているため、試合を組む段階でアウェイとなることはあまりなかったのだが、「いつもの自分たちのグラウンドで、いつも自分たちのペースで、いつも同じ審判で」試合するよりも、確かにアウェイでしか経験できないこともたくさんある。この日は就任以降初めてのアウェイでの練習試合となった。滋賀県皇子山球場でのナイターだが、「Bチーム戦がある時以外は全員で移動」という方針で、58名での移動となった。本格的な球場で全員でストレッチをし、キャッチボールをするだけでも下級生には大きな経験となったはずである。

5月21日

卯瀧流1 部員の互選で練習メンバー厳選





春季大会終了からメンバーは白紙に戻し、特に2～3年生には平等の練習機会を与えてきた。練習試合でもチャンスがなかった3年生を起用し、練習試合のなかった20日には5イニング制の紅白戦を3試合行った。その後部員全員に「夏に向けた練習メンバー18名」を投票させ、その結果を全員の前で開示した。夏へ向けてはこの選ばれた18名と投手陣若干名、さらに秋に向けて戦力となりそうな新入生数名を中心にメニューが進む。当然、最上級生でも選から漏れた部員も出たが、「チャンスをもたらした後の仲間の判断」であり、夏に向けて「自分はどうすればチームに貢献できるのか」を自ら考えることになる。

5月17日

里井祥吾臨時コーチが専任コーチに



1ヶ月間限定コーチとして部員に打撃指導をお願いしていた里井祥吾氏（鳥羽～立命館大）が、今回専任コーチに就任することが決まった。卯瀧先生は監督就任前から「コーチを付けることを認められているが、考えられるのは里井。それ以外なら今は適任者はいない」と語っており、またこの間は「今はいいけど、里井がいなくなったらどうしよう」というのが口癖であった。今回の正式就任に部員も保護者も大喜び。打撃練習が始まればその間は里井コーチに任せっきりとなり、卯瀧先生はブルペンへという構図ができあがった。

5月16日

クラブ対抗、ぶっちぎりの3連覇!!



体育祭の盛り上がるイベント「クラブ対抗リレー」は、硬式野球部にとっても3年連続優勝がかかる競技。「負けわけがない」と松本主将が豪語する第1走・井上（3年）～第2走・市川（2年）～第3走・金子（2年）～アンカー・松本（3年）は予選・決勝とも2位を10数メートル以上引き離して、ぶっちぎりの優勝を果たした。4年前にバトンミスで下位に甘んじた年があるが、それ以前も3年連続優勝をしており、これで7年間で6度の優勝となった。校内最速を決める「韋駄天杯」でも優勝が松本（3年）、2位が金子（2年）と、ワンツーフィニッシュを果たした。

※写真はクラブ対抗の応援に盛り上がる硬式野球部員

5月13日

Pair-Rits定時総会を実施



硬式野球部の保護者会（通称Pair-Rits）の定時総会が生徒寮食堂で行われた。新入生保護者も含めて多くの家庭から参加があった。冒頭に松本会長から「前会長の伊崎様からこの保護者会について、自分たちの子供を応援することはあっても、相手チームのミスを喜んだり、相手をやじったりすることのない紳士的な会であるという伝統があると聞いている。この会はその伝統をしつかりと受け継いでいかなければならない」と挨拶があった。石川部長からは野球部の近況と今後の予定について報告があり、夏の大会の応援体制などについて話し合われた。

5月6日

9日間のGWミニキャンプ終了!!



「瞬発力はあるが持久力がない」「センスはあるが泥臭さがない」「先行すると強いが追い詰められるともろい」いつの間にか染みついたひ弱さを露呈するチームの一面である。就任一ヶ月の卯瀧先生は、このイメージを払拭するため、GWの土曜日を含めた9連休をミニキャンプとし、OBの協力も得て鍛えあげた。特に部員に堪えたのは「失点ダッシュ」。練習試合の「失点数×10×30メートルダッシュ」なのだが、5日の練習試合では投手陣が踏ん張れず、2試合で16失点となり、160本ダッシュとなった。勿論、走る部員の横にはスタッフが付きっきりで、この間の水分補給は自由だが、それがその日の最後のメニューではなく、引き続き守備練習が行われるなど、部員はかつてない経験をした。

硬式野球部 TOP PAGE^

## 2007年4月度のトピックス

平成19年度春季京都府高等学校野球大会 速報

4月26日

さすがプロの技!! ベンチ裏に棚が



試合の時にベンチにバッグや道具は当然ベンチ裏に置くことになるが、雨が降った場合にはブルーシートをかぶせたり、また真夏には直射日光にさらされることになり、特にアウェイのチームには不自由をかけてきた。今回、OBの河野氏がスタッフからの要請を受け、「あり合わせで作るので良ければ」ということで、1・3塁ベンチ裏に写真のような棚が完成した。かなり頑丈に作られており、さすがプロの技と感心させられる。これで雨が降ってもいちいちブルーシートの出し入れを気にすることもなく、練習や試合に専念できる。河野OBに感謝!!

4月19日

心強い!! 里井臨時コーチを招聘



17日より卯瀧先生の依頼で臨時打撃コーチが就任した。鳥羽高校時代の教え子で選抜でベスト4に進出した時のスラッガー里井祥吾氏である。その後立命館大学でも中軸バッターとして活躍した。卯瀧先生曰く「打撃理論がしっかりしているだけでなく、教え方が実にうまい。投手を教えるのは負けないが、打者の育成なら間違いなく里井が上」と認めるほど。その効果はてきめんで、力みのないスイングから快打を連発する選手が出てきた。「次の仕事に就くまで」という1ヶ月期間限定だが、今のうちにどんどん吸収してもらいたい。

4月18日

最も読まなければならない本を30冊



野球場の部員が更衣するクラブハウスの書籍棚にずらりとならんだ真新しい本。卯瀧先生の要望でそろえられた『公認野球規則2007年度版』である。就任直後に「何かと勉強になるし、野球選手なら機会あるごとに読むのは当然。一人一冊が理想だが、せめて二人に一冊はほしい」ということで購入された。

ミーティングでは部員に高校生が誤って解釈しているルールを例に挙げて「それはルールブックと違う」という指摘がよくされる。このルールブックがすり切れるまで読んでもらいたいものである。

4月13日

厳重な警戒網の中、西京極球場へ



この日は2～3年生部員は午後から公欠となり、学園の要請で西京極球場で中国・温家宝首相をお迎えする大役を担った。貸し切りバスでいったん三室戸の野球場へ寄り、試合用ユニフォームに着替えて厳重な警戒網の中、西京極球場に到着した。全部員に入場の際し、金属探知器によるボディチェックが行われるなど、いつもと違う球場の雰囲気緊張気味。しかしリハーサルで歓迎の言葉を中国語で大声で唱和し、拍手の練習をする頃にはすっかりリラックスし、大役を終えた。

4月3日

新監督の初試合、大勝で発進!!



卯瀧先生を迎えて3日目の今日は練習試合。初めて試合用ユニフォームに袖を通しての采配となった。前日には入念にサインの確認を行い、シート打撃も行った。しかしまだまだ全部員の力を把握しているわけではなく、主務や主将、部長に相談の上での選手起用であったが、試合中に選手に行うアドバイスは的確で単純明快であった。

試合は立ち上がり4回は少し選手も意識して後一本が出なかったが、5回以降は打線が爆発し、14対1で大勝し、白星発進となった。

4月1日

新入生20名が一日体験入部



入部予定者20名が一日体験入部を行った。規定では3月25日より練習参加が認められているが、13名が入寮予定者であり、また監督不在の状況を踏まえて、入学式翌日まで正式な参加は認めていなかった。

この日は新監督の始動日でもあり、「入部予定者の実力診断もしておきたい」とのことから、20名の予定者全員が参加して、密度の濃い一日を過ごした。石川部長から「どうでしょ??モノになりそうな子はいますか??」という問いかけに、新監督は「そうなるように育てるのが私の役目です」と応えた。

4月1日

いきなり全開!? UDAKI パワー



卯瀧新監督がこの日より本格始動を開始し、エネルギーにグラウンドを動きまわった。「初日から自分流で」と公言していたが、ボールの正しい握り方から始まり、スナップスロー、肘の使い方と部員たちに熱く語りかけた。また昼食休みには生徒寮で臨時保護者会も開かれ、学校から寺田副校長が出席し。新監督も保護者の前で「宜しくお願いします」と挨拶した。

午後からも、この日一日体験入部で参加した20名の入部予定者の実力を見極め、新2～3年生相手に自らの打撃理論を語った。初采配は3日の洛北戦となる。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)△

## 2007年4月度のトピックス

平成19年度春季京都府高等学校野球大会 速報

4月26日

さすがプロの技!! ベンチ裏に棚が



試合の時にベンチにバッグや道具は当然ベンチ裏に置くことになるが、雨が降った場合にはブルーシートをかぶせたり、また真夏には直射日光にさらされることになり、特にアウェイのチームには不自由をかけてきた。今回、OBの河野氏がスタッフからの要請を受け、「あり合わせで作るので良ければ」ということで、1・3塁ベンチ裏に写真のような棚が完成した。かなり頑丈に作られており、さすがプロの技と感心させられる。これで雨が降ってもいちいちブルーシートの出し入れを気にすることもなく、練習や試合に専念できる。河野OBに感謝!!

4月19日

心強い!! 里井臨時コーチを招聘



17日より卯瀧先生の依頼で臨時打撃コーチが就任した。鳥羽高校時代の教え子で選抜でベスト4に進出した時のスラッガー里井祥吾氏である。その後立命館大学でも中軸バッターとして活躍した。卯瀧先生曰く「打撃理論がしっかりしているだけでなく、教え方が実にうまい。投手を教えるのは負けないが、打者の育成なら間違いなく里井が上」と認めるほど。その効果はてきめんで、力みのないスイングから快打を連発する選手が出てきた。「次の仕事に就くまで」という1ヶ月期間限定だが、今のうちにどんどん吸収してもらいたい。

4月18日

最も読まなければならない本を30冊



野球場の部員が更衣するクラブハウスの書籍棚にずらりとならんだ真新しい本。卯瀧先生の要望でそろえられた『公認野球規則2007年度版』である。就任直後に「何かと勉強になるし、野球選手なら機会あるごとに読むのは当然。一人一冊が理想だが、せめて二人に一冊はほしい」ということで購入された。

ミーティングでは部員に高校生が誤って解釈しているルールを例に挙げて「それはルールブックと違う」という指摘がよくされる。このルールブックがすり切れるまで読んでもらいたいものである。



4月13日

厳重な警戒網の中、西京極球場へ



この日は2～3年生部員は午後から公欠となり、学園の要請で西京極球場で中国・温家宝首相をお迎えする大役を担った。貸し切りバスでいったん三室戸の野球場へ寄り、試合用ユニフォームに着替えて厳重な警戒網の中、西京極球場に到着した。全部員に入場の際し、金属探知器によるボディチェックが行われるなど、いつもと違う球場の雰囲気緊張気味。しかしリハーサルで歓迎の言葉を中国語で大声で唱和し、拍手の練習をする頃にはすっかりリラックスし、大役を終えた。

4月3日

新監督の初試合、大勝で発進!!



卯瀧先生を迎えて3日目の今日は練習試合。初めて試合用ユニフォームに袖を通しての采配となった。前日には入念にサインの確認を行い、シート打撃も行った。しかしまだまだ全部員の力を把握しているわけではなく、主務や主将、部長に相談の上での選手起用であったが、試合中に選手に行うアドバイスは的確で単純明快であった。

試合は立ち上がり4回は少し選手も意識して後一本が出なかったが、5回以降は打線が爆発し、14対1で大勝し、白星発進となった。

4月1日

新入生20名が一日体験入部



入部予定者20名が一日体験入部を行った。規定では3月25日より練習参加が認められているが、13名が入寮予定者であり、また監督不在の状況を踏まえて、入学式翌日まで正式な参加は認めていなかった。

この日は新監督の始動日でもあり、「入部予定者の実力診断もしておきたい」とのことから、20名の予定者全員が参加して、密度の濃い一日を過ごした。石川部長から「どうでしょ??モノになりそうな子はいますか??」という問いかけに、新監督は「そうなるように育てるのが私の役目です」と応えた。

4月1日

いきなり全開!? UDAKI パワー



卯瀧新監督がこの日より本格始動を開始し、エネルギーにグラウンドを動きまわった。「初日から自分流で」と公言していたが、ボールの正しい握り方から始まり、スナップスロー、肘の使い方と部員たちに熱く語りかけた。また昼食休みには生徒寮で臨時保護者会も開かれ、学校から寺田副校長が出席し。新監督も保護者の前で「宜しくお願いします」と挨拶した。

午後からも、この日一日体験入部で参加した20名の入部予定者の実力を見極め、新2～3年生相手に自らの打撃理論を語った。初采配は3日の洛北戦となる。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)△

## 2007年3月度のトピックス

3月18日

### センバツ出場校の胸を借りる



センバツ出場のため関西入りしている九州代表・小城高校（佐賀県）の胸を借りることができた。昨秋の九州地区大会での上位進出で、センバツの選出が確実視されていた強豪である。本格派右腕のエースはMax140km。重量バットで鍛えた打線が、普通バットに持ち替えて挑んだ。結局3イニング登板したエースからは攻め込みながらも得点ではなかったが、4回以降はチャンスを実確にものにし、投手陣も3人の完封リレーで、6-0で勝たせていただいた。

また小城高校は本校の元教頭の出身校でもあり、午後からは同校にグラウンドを開放し、練習していただいた。

3月18日

### 暑さ寒さも彼岸まで!? 朝から降雪

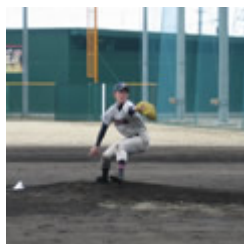


練習試合が解禁となった先週末から「寒の戻り」に悩まされてきたが、この日は朝から雪が降り続けた。明け方から降り始めた雪は、止むことなく降り続け、車や家の屋根は真っ白。また三室戸の山々も真っ白に見えた。一年に一度積雪するかどうかの宇治では、「もう今年は雪景色は見られないと思っていたのに、ここへ来て降るか...」と試合用にユニフォームに着替えた部員も何とも恨めしげ。

幸いにもウォーミングアップが始まる頃には太陽が顔を見せたが、今日は彼岸の入り。「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉を信じたい。

3月11日

### 寒風の中、今シーズン初試合実施



前夜からの雨でグラウンドコンディションが心配されたが、朝から懸命のグラウンド整備で予定より30分遅れで、今シーズン初の練習試合が実施された。暖冬であり寒い日がなく、春本番の気温の日もあっただけに、小雪もちらつくこの日の寒さは守備につく選手を震え上がらせた。

この日、チームが設定した試合目標は「1塁への全力駆け抜け」「力強いスイング」「状況に応じた守備での声かけ」で、バットは試合用を封印し、全員がこの冬振り込んだ重さ1kgの重量バットで挑んだ。初の試合で監督代行としてベンチ入りした石川部長は主務を除く37名全員を2試合で起用したが、連勝の結果よりも自分たちの設定した目標が全員で達成できたのかどうかを部員達に問い返した。

3月10日

巣立つ3年生部員12名を見送る



今日は卒業式。3年生部員12名が卒業証書を手に巣立った。1～2年生部員38名は全員で花道を作り、先輩一人一人に記念品を手渡して見送った。今年の記念品は夏の選手権京都大会開会式での記念パネル。

試合出場機会にはあまり恵まれなかった学年であったが、夏以降の学園生活は近年の部員では、現役時代と変わらぬ爽やかさと規律正しさを保ち、立派な締めくくりとして後輩達の手本となった。また式後には保護者が全員集合し、生徒部室へわざわざ部長に「お世話になりました」と挨拶に来て下さり、恐縮の限りであった。

3月8日

血迷ったか!? 部長のユニフォーム姿



7～8年前まではユニフォーム姿でノックしていたが、最近の部員は勿論、石川部長の雄姿!?を知らない。今のチームになってから、課題練習の時に時々ノックバットを握ることはあったが、ジャージ姿であった。

今回、チーム事情もあって、クロゼットの奥にあったユニフォームを持ち出し、連日ノックを打っている。現段階では「昔取った杵柄」とはいかず、ボールは外野手の定位置までしか飛ばない。最近では生徒部長とあって、部員の印象はネクタイ姿。「タバコを止めてから太る一方だったので、ちょうど良い機会。けど長い時間はきつい」と言いながらも、山口主務にデジカメで撮影させた。

3月6日

球春近し!! 全員集合で練習再開



学年末テストが終わり、今日から練習が再開された。約2週間に及ぶ自主練習期間であったが、多くの部員が寮や最寄り駅からランニングで登校する姿が見受けられるなど、今までにない積極性も感じられた。また1月後半から入れ替わり立ち替わりでインフルエンザに悩まされたが、この日は久々の全員集合となった。

午前中の2時間はコンディショニング。上級生を中心にフィジカルリーダーが任命され、各部員が指示に従ってコーチの指示に従って身体をチェックした。午後からはノックやフリー打撃が始まったが、気温は生憎の低め。それでも部員は元気にグラウンドでボールの感触を楽しんだ。

## 2007年2月度のトピックス

2月17日

松本主将が抽選会に初挑戦!!



春季大会抽選会が行われ、松本主将がチームを代表してくじを引いた。秋季大会2次戦の時はチームは日替わりでキャプテンが回っている状況で、山口主務が抽選を引いたので、松本主将はこの日が初挑戦。

理事である部長の引率のため、会場には1時間半前に到着。到着一番乗りで引いた順序抽選は41番。本抽選でも落ち着いて番号を読み上げた。

全てが終わった感想は「抽選結果は普通でした。東山は投手が良いらしいです」と早速他チームから情報も仕入れていた。

2月14日

恒例!! 合格発表、即入部予定受験生招集

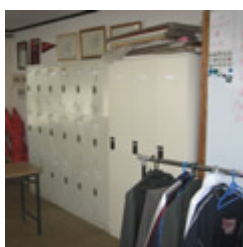


今年度入試の合格発表が15時より行われた。例年通り16時からA401教室に硬式野球部が事前掌握している入部予定者を招集した。推薦A（学術学芸スポーツ）6名、推薦B（指定スポーツ）10名、専願1名、内部進学3名である。部長から現在のクラブ状況や学習を最優先させるクラブ運営方針について説明があり、その後チームグッズの採寸と注文が行われた。

高校野球連盟では新入生の練習参加を3月25日以降認めているが、今年度も20名のうち13名が寮生のため、正式な練習参加は入学式以降となる。ただし4月1日（日）に事前入部として、一日だけ上級生とともに練習する予定。

2月12日

整理整頓!! 全員分のロッカーを確保



クラブハウスには各自の荷物を置くスペースとして、本箱を改良したスペースが与えられていたが、この度学校の事務室で備品入れとして使われていたロッカーが廃棄処分されることになり、「それなら硬式野球部で」と譲り受けた。従来からあるものを含めると39名分の個人ロッカーを確保できたことになり、従来のは新入生用となる。整理整頓はチームの伝統であるが、落書き禁止は勿論、施錠することも禁止され、山口主務より全員にスペースが分け与えられた。



2月10日

知る人ぞ知る!! あのカメラマンが...



たっちゃんの『ベースボール倶楽部』でも紹介されている高校野球をこよなく愛し、球児の写真を撮り続けるアマチュアカメラマンの森田巨彦氏が、グラウンドを訪れ、部員たちの練習風景にレンズを向けてくれた。前日の雨でどこの学校もグラウンドが使えない状態で、「立宇治なら水はけもいいので」と急遽駆けつけてくれた。朝から試合も出来そうなグラウンド状態であったが、この日の午前中は室内でコンディショニング。それでも森田氏は熱心に部員にレンズを向けた。このHPのトップを飾る「秋季大会の一こま」も全て森田氏の撮影である。

2月8日

3年生4名が大学練習に合流



6日で学年末テストを終えた3年生4名が本日より大学の練習に合流した。伊崎亮介、宮本剛司、大西和宏、鈴木雄介の4名は昨日中に引越し作業を終え、9時半から1日からすでに参加している他の新生に合流し、13日から始まる恒例の伊予三島キャンプにも参加する。

ただし昨今の学園内の「学業最優先」の流れを受けて、昨年度まで公欠扱いにされてきた2月の大学とのブリッジ講座、指名TOEFL講座は今年度より出席が義務づけられており、必要に応じてキャンプ地と学校を往復する。

2月7日

快心!?!いや苦心の作...手作りフェンス



グラウンドのレフト後方にある3人が同時に投球練習できるブルペンの捕手後方にあった木製のフェンスが老朽化したため、日曜大工は大の苦手の部長が一念発起して余り物の材料で作り替えた。「快心の作」と言いたいが、近づけば粗の見える苦心の作。

下段はコンパネの上から人工芝を張ったもの、中段は古いネットを張り巡らし捕手の後方から球筋を確認できる。上段はこれも余り物の遮光ネットを張った。遠くから見ればそれなりの出来映えなのだが....

2月4日

大命題!! 怪我をしない柔らかい身体を作る





先週日曜日につき、コンディショニングコーチの指導の下、二人一組でチェックできる方法でストレッチングが午前中に行われた。主に肩甲骨周辺及び下半身（股関節）である。「春までに全員が怪我をしない柔らかくて強い筋肉を作る」のが目標である。

午後からはさらにスタッフが加わり、先週の測定結果の見方と分析報告があった。チーム全体としては首周辺と肩の筋肉が固いとのこと。またウエイトトレーニングをほとんどチームとして練習メニューに取り入れていないことを考慮すると、筋力は結構高い数値とのことであった。

## 2007年1月度のトピックス

1月28日

専門家による体力測定を実施



午後から室内練習場で体力測定が行われた。技術練習と同じく大切な部分でありながら、なかなか選手個々にまで目が行き届いていない現状を懸念した部長が、メジャーでも指導経験のあるコンディショニングコーチにお越しいただき、実現したものの。

身体の柔軟性を測定する班と体幹の強さを測定する班の2つに分かれ、約3時間で終了した。約1週間で個々のデータが出来上がり、個別面談も実視される予定だ。「全て受け身ではだめ。疑問に思うところはどんどん質問しなさい」という部長の助言に、部員の中には早速ウエイトトレーニングについて質問する者も出た。

1月27日

週末限定メニュー!! 坂道ダッシュ



普段の練習には必ずランニングメニューがあり、部員は日替わりで

「墨間ダッシュ+補強運動」「60メートルダッシュ」「90メートルダッシュ」を繰り返している。どれもその日の最後を飾るに相応しい厳しさで、インターバルが短く、瞬間に部員の身体から湯気が上がる。

そしてこの日から週末限定メニューとして坂道ダッシュが加わった。グラウンドから数分の大吉山遊歩道に移動してのもの。1週間前に部長と山口主務が下見を行つたが、「平日は暗くて危険。また日中は遊歩道をハイキングコースとしている市民に迷惑となる」という判断から、時間帯もピンポイントで春まで実施される。

1月13日

即席カップ麺で鏡開きのお餅を



部室に飾ってあった鏡餅の中の小餅を全員で食べた。マネージャや保護者がぜんざいや豚汁を作ってくれた年もあったが、今年は簡単に部長が買ってきたミニカップ麺。練習の後片づけが始まると、部室にあるホットプレートで餅を焼き、ミニカップ麺の中に入れて、お湯を注いで食べた。

練習最後のメニューは60メートルダッシュで汗がしたたり落ちていたが、夕刻からの冷え込みで、グラウンド整備の間に身体も冷えかかっていたため、ほっこりする温かみを

感じられたはず。手作りににはかなわないけど、思いだけは込めました。

1月7日

さすがにこの吹雪は厳しいっす!!



この3連休は日本列島各地で台風並みの風が吹き、近畿地方中部でも積雪が予報されたが、午前から始まった練習はまさに吹雪の中でのものとなった。立ちこめる雪雲にボールを使っての練習を早々と諦め、身体を温めるために始めたサッカーの最中にも視界が遮られるほどの猛吹雪に。それでも目の前にあるボールを懸命にボールを追いかけるのが本能。瞬く間にユニフォームはずぶぬれになってしまった。

風邪を引かないようにと練習は午前中で切り上げたが、今まで暖かい日があっただけに、よけいに厳しく感じた。

1月5日

松本新主将で新春練習スタート!!



年末年始休みも終わり、この日は吉例の宇治神社での新年参拝で活動が再開された。神社から戻った部員はそれぞれポジションに分かれ、御神酒でグラウンドを清めた後、各自の課題トレーニングで2時間ほど汗を流した。

新チームスタート以降、主将は日替わりで活動してきたが、年末の上級生の話し合いで松本陸（2年）が新主将となった。これでチームを側面から支える山口雄三主務と心強いタッグを組むことになった。尚、当面副主将。副務はおかない方針である。

硬式野球部 TOP PAGE^